

ケタミンの緩和ケア領域における使用動向調査及びその有用性に関する薬理学的研究

著者	山 秀一
学位名	博士（薬学）
学位授与機関	北海道医療大学
学位授与年度	平成25年度
学位授与番号	30110乙第105号
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00006641/

学位論文審査、最終試験並びに学力の確認結果報告書

大学院薬学研究科長 殿

主 査 平 藤 雅 彦



副 査 富 樫 廣 子



副 査 唯 野 貢 司



副 査 増 田 園 子



このたび 神山 秀一 にかかわる学位論文審査、最終試験並びに学力の確認を行い下記の結果を得たので報告する。

記

1. 学位論文題目

ケタミンの緩和ケア領域における使用動向調査及びその有用性に関する薬理学的研究

2. 論文要旨 別添

3. 学位論文審査の要旨

本学位論文は、がん性痛における鎮痛補助薬としてのケタミンの有用性を明らかにするために、市立札幌病院緩和チームにおけるケタミンの使用動向を後方視的に調査し、さらにラット皮質機能に及ぼすケタミン単独並びにモルヒネとの併用投与の影響を、行動薬理学的、神経化学的、電気生理学的手法などを駆使して多角的に検討したものである。その結果、オピオイド類と併用されるケタミンの使用量の経年的な減少によりケタミンによると思われる副作用の発現が減少していること、ケタミンの用量に依存したラット皮質前頭前野のシナプス伝達抑制機構が存在すること、皮質機能及び侵害刺激応答に影響を与えない用量のケタミンがモルヒネの鎮痛効果を増強することを示している。

本学位論文は、これまで臨床報告や基礎的研究報告の少ない鎮痛補助薬としてのケタミンに焦点を当て、副作用リスクの低い低用量ケタミンとオピオイド類との併用療法の有用性を薬理学的に実証し、今後のがん患者のがん性痛緩和のための薬物療法に有益な情報を提供するものと高く評価できる。

4. 最終試験（学力の確認）の要旨

研究発表会における発表は論旨の通った内容にまとめられており、発表会及び口頭試験間においても様々な観点からの質問に対して的確な応答をした。また、学位論文は多くの文献を引用して論理的な記述がされており、説得力のある結論を導いている。これらのことから、学位授与に値する高い専門性と十分な学力を有すると認められる。

以上の結果、神山秀一は博士(薬学)の学位を授与する資格の あ
る

な
い ものと判定する。

以上